

第2回安曇野市消防委員会 会議概要

- 1 審議会名.....安曇野市消防委員会.....
- 2 日.....時.....平成26年12月18日.....午後6時30分から午後7時30分まで.....
- 3 会.....場.....豊科支所.....コミュニティー消防センター.....
- 4 出席者.....宮澤委員長、松田委員、小穴委員、高橋委員、金盛委員、等々力委員、丸山委員、中谷委員、鈴木委員、布山委員、高木委員、寺畑委員.....
- 5 市側出席者.....白澤課長、二木係長、関主査、川口主査、白井主査.....
- 6 公開・非公開の別.....公.....開.....
- 7 傍聴人.....0人.....記者.....0人.....
- 8 会議概要作成年月日.....平成26年12月19日.....

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 会議事項
 - (1) 安曇野市消防団年末特別警戒
 - (2) 安曇野市消防団出初式
 - (3) 平成27年度安曇野市消防団事業計画（案）
 - (4) 消防委員会の答申に対する実施事項
- 4 閉 会

2 会議概要

(宮澤消防委員長)

それでは、議題に入ります。(1) 安曇野市消防団年末特別警戒、(2) 安曇野市消防団出初式、(3) 平成27年度安曇野市消防団事業計画（案）について、事務局よりご説明をお願いします。

《川口主査より、(1) 平成26年度年末警戒激励について、実施要領を示し、消防委員の皆様に関わる集合日時、服装・当日の動きの説明をした。

続いて、川口主査より、(2) の平成27年安曇野市消防団出初式について、実施要領・進行表・式典席次・分列行進時整列図等を示し、例年、穂高会館で実施しているが、耐震工事により、今年はサンモリッツで実施すること、会場変更により控室が用意できず来賓の皆様には受付後会場の来賓席にご案内することについて説明をした。

続いて、二木係長より、(3) 平成27年度安曇野市消防団事業計画（案）について、千曲川・犀川水防演習・ポンプ操法大会・出初式等の主な行事の説明をした。》

(宮澤委員長)

(1) から (3) まで説明が終わりましたので、質問を受け付けます。

(丸山委員)

今年度サンモリッツで出初式を開催し、来年度また穂高会館に戻って開催するという話がありましたが、穂高会館は暖房もなく寒いということですので、団員の出席率のことを考慮すれば、暖かい会場で行うことを考えても良いと思います。防災広場が豊科にできたことから、穂高に戻さずに豊科公民館で行っても良いと思いますがいかがでしょうか。検討をお願いします。

(二木係長)

丸山委員のご指摘のとおり、新本庁舎を中心に防災広場の活用もありますので、検討しても良いとは思いますが、豊科公民館の耐震化工事ですが、平成28年1月の出初式の際にも、完了していません。ですから、会場の検討をするのは、平成29年の出初式からになります。今後検討していきたいと思います。

(宮澤委員長)

よろしいでしょうか。

(丸山委員)

了解しました。

(宮澤委員長)

その他にありますか。それでは、次に移りたいと思います。寺畑団長より、(4)消防委員会の答申に対する実施事項ということでよろしくをお願いします。

(寺畑委員(団長))

委員会から答申されておりました内容につきまして協議未着手・継続中のものについて、現在の状況をご報告したいと思います。本日、資料はありませんが、口頭で申し上げたいと思います。

「消防団の組織見直しに関する事」につきましては、分団長の任期については、団長・副団長が2年任期であることを踏まえ、平成28年度から分団長の任期を2年とするということで話を進めていまして、概ねこの方向で任命ができそうな形で進んでいます。

「本部体制に関する事」につきましては、現在、本部は、本部隊、女性消防隊、音楽喇叭隊の3隊で成り立っています。当時ありました答申については、この3隊をまとめるリーダーが必要だということになっています。しかしながら、この3隊につきまして、それぞれの隊が非常に充実して、隊それぞれが分団格ぐらいになってきているということで、この3隊をまとめるのは難しいのではないかという意見が出ています。このことから3隊をまとめる本部長を作るか、各隊を分団格にするかについて平成27年度に検討協議していきたいと思います。

それから、本部員の選出方法等については、本部隊が非常に充実した中で現在12名の隊員がいて、活動しておりますけれども、主に市外在住の市役所職員の皆さんに活躍していただいています。今後5年程度は、市外在住の市職員を登用していきたいと思っています。

市内在住の市職員の皆さんには、各分団・部に属していただくことを考えています。また、活動については、私たちにも何かやらせてくれというように、非常に積極的に活動しています。このことも含めて報告させていただきます。

「消防団員の退団年齢に関する事」ですが、平成22年度から5年を目途に概ね40歳とすることが望ましいとなっています。また、地域性によってばらつきがあるため、目標年齢が異なるとあります。この件につきましては、他の項目と比べ非常に難しい項目でした。幹部としては、各分団長の権限で分団・部ごとに個別に進めていったらどうか、という意見が出ています。まだ結論は出ていませんが、方法につきまして、幹部から分団長へ投げかけているところです。

「分団・部の編成に関する事」ですが、第7分団・豊科地域・穂高地域について再編成の話が出ています。また、安曇野市消防団の編成ということのなかで、北部・南部という編成を組んでいきたいと考えています。消防署の管轄に併せたかたちにしたいと考えています。それから、「豊科ブロック」「明科ブロック」「穂高ブロック」「堀金ブロック」「三郷ブロック」という呼び方を平成27年度からテスト的に変えていったらどうかということで動きたいと思っています。「第1ブロック」「第2ブロック」という呼び方になろうかと思っています。

「火災出動範囲の見直しに関する事」ですが、ブロックの枠を超えた出場よりもブロック内での出場区分、第1次出場、第2次出場について検討をされたいということで話が出ております。これにつきましては、豊科ブロック・穂高ブロックをそれぞれ2班に分けて出動する方向で準備をしております。その判断につきましては、概ね大字によりまして、判断できそうだとということで今進んでおりますので、本日は資料を用意していませんが、地区を分けまして、出動の状況を把握しまして、第1次出動・第2次出動を平成27年7月ころから導入したいと考えています。そのなかで、団員の負担軽減につなげていければと思います。また、関係する消防署としっかり協議をしたうえで不具合がないか確認をしながら進めていきたいと思っています。併せてメールの配信システムも稼働はしていますけれども、その点の確認をしながら最終的には管轄の区長の皆様にも話をして、消防団の動きの一番の根幹となる火災出動ですので、万が一、落ちがあってはいけないということのなかで進めていきたいと思っています。

以上、消防団の幹部として話し合っただけ方向が出たものについて今日報告をさせていただきました。書類がなくて申し訳ございませんが、平成27年度に書面で報告できるようにしたいと思います。それから、「音楽喇叭隊のあり方に関する事」「女性消防隊のあり方に関する事」「消防団補助金のあり方に関する事」につきましては、協議をしていますが、方向性が概ね定まってきましたが、まだ発表の段階ではありません。発表は平成27年度になるかと思いますが、進めていきたいと思っていますのでご理解のほどよろしくをお願いします。以上です。

(宮澤委員長)

この件で質問がありましたら、お受けします。寺畑団長にお聞きしたいのですが、平成23年7月1日に松本地域で地震がありまして、また、白馬地域でも地震がありました。それを考えると、この安曇野市でもいつ起こるかわからない、それに対しての話し合いというものはしていますか。

(寺畑委員)

その件につきましては、会話のなかで話題にはなりますが、いざ安曇野市で起こった場合につい

ての話はしていません。委員長がおっしゃるような対応策について検討していきたいです。

(宮澤委員長)

身近に起こっている災害ですので、対応策について少しずつ進めていただきたいと思います。

(白澤課長)

市には防災計画というものがございまして、消防団につきましては、万が一、発災があれば団長は災害対策本部の本部員、団員につきましては詰所待機、これは気象警報等があれば待機という体制はできております。また、先般の神城地震でも震度4が穂高・明科、震度3が豊科・三郷・堀金でした。その時は時間が時間でしたので、市から団長を通じて全消防団員にパトロールをしていただきました。

(宮澤委員長)

そこで震度いくつになったら出場ということを決めておいてもらえればよいと思います。

(白澤課長)

震度3・震度4につきましては、市の職員が事前体制をとって、情報収集をします。消防団が出場であれば、震度5弱の地震が発生した場合は市で災害対策本部を設置させていただき、消防団へもそういった体制をとっていただくようになっています。

(中谷委員)

今の件で、安否確認システムを今、いろいろなところで取り入れて警備保障会社から各団員に一斉メールして出場できるかどうか返信をするということを大きな企業になるとやっていますが、そういうシステムを市では将来的には考えていますか。

(白澤課長)

職員はそういうシステムでやっていますが、消防団につきましてはシステム上誰がどのように消防団に対してやるのかを研究しないとイケません。会社や自治体でしたら対応できますが、消防団独自ではなかなか難しいのではないかと判断します。

(中谷委員)

先ほど、寺畑団長から消防団員の定年が40歳というのは難しいので、分団ごとという説明がありましたが、分団ごとに定年を決めて団としてのまとまりができていくのか、という不安がありますが、団として何年までには何歳というものを決めてそれに向かって準備していくという方法がよいと思いますので検討をお願いします。

(丸山委員)

40歳定年というのは私が団長の時に決定したのですが、まだ実施されません。長野県内の消防団を見ても分団ごとに定年を決めているところは、ひとつもありません。なぜ40歳定年が望ましいとなったのかですが、これは団長よりも分団長が年上であったり、分団長のなかでも最年長と最年少で20歳以上も歳の差があるというのが現実だったからです。そこで、長野県内の消防団の組織を調べたところ、どこの消防団も定年年齢を団で決めていました。それに基づいて検討した結果、安曇野市では40歳定年でいけば団員確保にも役立つのではないかとということで、消防団の総会に準ずる会議の場で定年を40歳とすることが決定しました。消防委員会にもお諮りして、答申にも40歳定年でいだろうということにもなりました。それ以降、定年が40歳に近付いているという分団もあれば、まだ定年について話し合われていない分団もあるということを知っています。定年の年齢について分団に任せるとまた元に戻すと思います。これではまったく意味がないと思います。

(宮澤委員長)

そういう意見も踏まえて、団で議論をお願いします。

(寺畑委員)

分団によっては、40歳で定年とするまでには時間がかかる、ということです。定年の年齢を各分団で変えているのではなく、40歳で定年とするまでには、ある分団は3年後、ある分団は5年後ということで、進め方を各分団に託すということです。

(宮澤委員長)

よろしいでしょうか。それでは、これからの動きについて事務局から説明をお願いします。

(二木係長)

12月25日の年末警戒激励の出欠席の報告について、本日までにお返事をお願いしていますが、ご都合をお聞きしてもよろしいでしょうか。・・・それでは、皆様出席ということで、予定させていただきますので、よろしくをお願いします。

以上